

【様式】

令和7年度 学校マネジメントシート

学校名(四日市農芸高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿	共通教科並びに専門教科を通じた教育活動の充実に努め、専門技術者(スペシャリスト)を育成するとともに、心豊かな人間性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する学校。	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	○将来のスペシャリストとして、専門科目への興味・関心を持ち、専門的な知識・技能の習得を自主的に行うことができる生徒。 ○自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めることができる生徒。
	ありたい教職員の姿	○目指す学校像実現に向けて、生徒指導力と学習指導力を高めることができる教職員。 ○生徒の可能性を信じ、生徒に寄り添いながら自らも成長することができる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> 専門的な知識・技術の習得、進路希望の実現、人格形成。</p> <p><保護者> 安全・安心な学校生活の保障、規律ある生活習慣の確立。</p> <p><地域住民> 地域の活性化、学校施設の提供、地域防災の拠点。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者> 生徒が明るく生き生きと目標に向かって努力する。自己実現・進路実現、学校からの情報発信。</p> <p><地域住民> 交流の場としての協力、地域行事への協力、地域開放講座などの実施。</p> <p><同窓会> 歴史と伝統のある学校としての実績、地域社会に貢献する有能な人材育成。</p> <p><大学等や産業界> 有能な人材育成への期待。</p>	<p><保護者> 本校教育活動への理解と協力、特に家庭の教育力の向上。</p> <p><地域住民> 本校教育活動への理解と協力、特に生徒の活躍の場面の提供、地域資源の活用。</p> <p><同窓会> 本校教育活動への理解と支援、特にインターンシップ受け入れや進路開拓。</p> <p><大学等や産業界> 本校教育活動への理解と連携及び支援、特に進路実現や商品開発に向けた連携。</p>

(3) 前年度の学校関係者評価など		<ul style="list-style-type: none"> ・信頼向上の取組、防災教育、人権教育、農芸祭の一般公開や環境教育等の取組について一定の評価を得ることができたものの、教職員の働き方改革に基づく職場改善については、改善に向けた取組を進めるようご指摘いただいた。今年度も地域との連携の充実を図り、より地域に密接した学校づくりを期待された。 ・令和6年度の課題として、以下の2点が示唆された。 <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の働き方改革。 ○地域との連携強化。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を持って学習や部活動に前向きに努力する習慣が醸成されている。 ・校内での合言葉である「挨拶は農芸の心」が学校文化として浸透し、何事にも真面目に素直に取り組もうとする豊かな心が育まれている。 ・農業教育、家庭科教育を進める上で、施設・設備の充実が急務である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や産業界との連携が年々充実する反面、地域からの要望過多により教職員の多忙化や困難化を招いている。 ・業務の簡素化・効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する工夫が必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・将来のスペシャリストや地域産業を担う人材の育成のため、高等教育機関や産業界等と連携して、より実践的な学習活動を展開する。 ・基礎学力の充実と専門教科指導を強化し、生徒一人ひとりが持つ能力を引き出し、希望の進路実現につなげる。 ・心の教育や部活動等を通して、規範意識を醸成し、生徒の自主性や個性の伸長を図る。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・中学卒業生の減少傾向が進む中で、中学生やその保護者にとって魅力のある「新しい農芸高校」の実現に向けて全教職員で取り組む。 ・専門高校の特色を活かした進学に向けた指導体制を確立する。 ・教育相談や特別支援教育の充実のための体制づくりを進める。 ・組織の業務内容の見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科の学習内容に興味・関心があり、学習意欲のある生徒。 ・部活動または生徒会活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒。
---------------------------------	---

5 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標とします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標とします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を充実し、基礎学力の向上を目指すとともにコミュニケーション能力の向上を目指す。 ・高い目標を持たせ、積極的に資格取得を奨励する。 ・生徒一人ひとりが納得いくコース選択を目指す。 ・多面的な学習指導を実施するために、図書館を活用する。 ・ICTを活用した学びを推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎力診断テスト、基礎学力テスト、進路模試、補習を実施する。 ○生徒が納得するコース選択のために学年や各学科、各コースと連携し、説明会や学年集会、個別面談などを行う。 ○生徒の学習活動を支援するため蔵書を整備し、図書資料や情報提供を行う。 ○授業の充実を図り、最大限の授業変更を行い、自習時間を減らし、授業見学の機会を充実させる。 ○タブレットの有効活用のために、互いに情報共有を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○成績不振による原級留置者をなくす。 ○検定合格・資格取得者数のべ1,400名(1人2つ以上)以上 ○授業見学期間を年2回以上設ける。 ○ICTを活用した授業を行った教員80%以上 	<p>教務 基礎学力診断テスト(4月)や基礎学力テスト(年10回)、休み明けテスト、進路模試(年6回)、補習(随時)を実施</p> <p>複数回のコース面談の実施</p> <p>授業見学期間を年2回実施 (6月、10月の2回、計5週間程度)</p> <p>成績不振による原級留置者0名 資格合格のべ数 993 (1月23日現在)</p> <p>蔵書の更新を図り、教育内容に沿った資料の整備や情報提供に努めた。</p> <p>ICT活用1度以上100% (LHR等を含む)</p>	※
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に対する意識を高め、挨拶の励行と生活マナーの向上を図り、一人ひとりの進路実現に向けた指導に取り組む。 ・事業所との連携を深め就職先の安定確保に努める。 ・専門性を生かした進学指導を強化する。 ・中学生やその保護者にとって、本校に入学したいと思える出口対策に努める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年・学科との連携を強化し、主に四大進学希望者への早期からの指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に対する意識向上と情報提供のため、各学年、進路講話、進路ガイダンスを行った。 ・事業所との連携は、校内事業所説明会の依頼があり、7社実施した。 ・専門知識が必要な進学者に課外授業を行った。 ・中学生や保護者が本校に入学したいと思える出口対策として、担当教員等が事業所説明会へ積極的に参加し、新規求人先の開拓 	※

	<p>○求人票閲覧システムを用いた求人情報の開示を実施する。</p> <p>1 学年—自己の適性を知り、自己理解を深める指導を行う。</p> <p>2 学年—勤労観を育み、自己の実現に向け自主的な行動ができる能力を養い、進路の意思決定ができることを目指す。</p> <p>3 学年—進路決定に向け学年と協力し、進路未決定者をなくす。 求人票閲覧システムを用いた、求人情報の開示を実施。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○1 学年の進路講話を 4 回以上実施。</p> <p>○各学年進路希望調査を 2 回実施 2、3 年生は 1 回以上の個人面談実施。</p> <p>○進路広報誌「あすなろ」を各学年 5 回以上発行。</p> <p>○学年、学科と連携し、100 社以上の事業所訪問を行う。生徒は 3 社以上の事業所見学。</p> <p>○3 学年校外模試を 3 回実施。</p> <p>○インターンシップ(2 年生 1 人 1 回以上)を実施。</p>	<p>に努めた。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○四大進学は、三重大学 宮崎大学、龍谷大学、名城大学、近畿大学等の難関校に合格できた。 また、指導に関する情報共有を定期的に行った。</p> <p>○デジタル求人票閲覧ソフト、「Handy 進路指導室」の利用方法を周知した。 求人票を全生徒・保護者がタブレット等で閲覧できるようにし、進路学習でも活用した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○1 学年進路講話 5 回実施(4、5、10、1 月) ※1 月は 2 回実施</p> <p>○進路希望調査 1 学年 2 回実施 2 学年 2 回実施 3 学年 2 回実施</p> <p>個人面談 2 学年 1 回実施(2 月) 3 学年 1 回実施(8 月)</p> <p>○進路広報誌「あすなろ」 1 学年 7 回発行 2 学年 8 回発行 3 学年 6 回発行</p> <p>○事業所訪問 のべ 130 社 就職希望生徒応募前職場見学 1 人 3 社以上</p> <p>○3 学年校外模試 進学模試 3 回実施 公務員模試 4 回実施</p> <p>○インターンシップ 2 学年 1 人 1 回以上実施</p> <p>※その他 ①進路講話 2 学年 6 回実施(4、6、9、11、3 月) 3 学年 3 回実施(4、5、7 月)</p>	
--	---	---	--

		②進路ガイダンス 1学年 1回実施(3月) 2学年 2回実施(7月、3月) 3学年 2回実施(5、6月)	
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席を減らし、校則の遵守を図る。 ・日常的な校内美化指導など環境教育を進める。 ・担任と生徒指導部の連携強化を図る。 ・組織的な生活指導を通じて生徒の問題行動の抑止を図る。 ・日常の挨拶の徹底と、生活マナーの大切さを指導する。 ・部活動や学校行事への積極的な参加を促す。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月例の生活点検を実施する。 ○毎日の登校指導等を通じて挨拶の励行を図る。 ○環境デー、校外清掃ボランティア等を実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○月例の生活点検において初日の合格者90%以上。締切までの合格者100%を目指す。 ○全教職員の100%が生徒に対しての声掛けができていると感じることを目指す。 ○全生徒・教職員の80%以上が挨拶はできていると感じることを目指す。 ○全生徒・教職員の70%以上が状況に応じた言葉遣いができると感じることを目指す。 ○生徒会行事を良かったと感じる生徒が85%以上。 ○学校環境デーへの参加生徒が70%以上。 	遅刻の把握と問題行動の抑止を目的に登校指導を継続している。 挨拶・身だしなみの意識向上には意義があると考えられる。生徒の些細な変化に気づき、見守り、声をかけることが問題行動の未然防止につながることも考える。今後も学校として継続したい取り組みであるが、教員の負担軽減のため、より良い方法を検討し続けるのが課題である。	※
農業教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目における資格を推進し、将来の進路に向けた学習意欲の向上を図る。 ・農業教育を充実させ、関連分野への興味・関心の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活点検初日合格率 1年:90% 2年:90% 3年:92% →達成 ・締切りまでの合格者10名不合格 →未達成 ・全教職員の声掛け97% →未達成 ・全生徒・教職員の挨拶職員60%、生徒96% →未達成 ・全生徒・教職員の言葉遣い職員66%、生徒85% →未達成 ・生徒会行事91% →達成 ・学校環境デー項目「環境教育の充実」で報告 <ul style="list-style-type: none"> ・農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行った。 	◎

	<ul style="list-style-type: none"> ・農業クラブ活動を充実させる。 ・専門性を生かす進路先の確保のための企業開拓、各機関との連携を図る。 ・農業教育の推進のため適切な施設・設備の活用、更新を図る。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門科目を通じて、資格取得講座の開設及び指導を行う。 ○インターンシップ、ファームステイ等への取組を促し、農業関連分野へ興味・関心を深める。 ○GAP更新やSTEAM教育等ICTを活用した授業を展開する。 ○6次産業化、スマート農業、DX人材育成の取組を推進する。 ○生徒の希望に応じたコース決定指導を行い、ガイダンス、面接等でミスマッチの無いよう配慮する。 ○施設・設備を活用し、専門性の高い農業教育を行なう。 ○実習・実験時の服装指導を徹底する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推奨する資格取得者延べ300名以上、職業教育顕彰15名以上、アグリマイスター顕彰15名以上、農業クラブ各種競技会(県大会で最優秀4つ以上、東海大会優秀賞2つ以上、全国大会優秀賞4つ以上)。 ○コース選択満足度100%、学習環境での生徒満足度90%以上。 ○各種イベント、出前授業、地域開放等20回以上。 ○GAPの取組1分野以上。認知度80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携、スマート農業やDX事業の取組を推進した。自動操舵トラクタ、直進アシスト田植え機、ドローンによる生育調査を実施した。 ・毒物劇物、造園技能検定などの講座を開講し指導を行った。 ・STEAM教育に取り組み、ICTを活用した授業を展開した。 ・推奨する資格取得者数は延べ399名(1月末現在)、FFJ検定上級3名、職業教育顕彰17名、アグリマイスター顕彰13名表彰予定 ・農業クラブ、全国大会農業鑑定(森林)で最優秀賞。他、全国大会優秀1チーム(プロジェクト発表)、全国大会優秀5名(農業鑑定)東海大会最優秀1チーム(プロジェクト発表)、優秀1チーム(プロジェクト発表)、優秀2名(意見発表)県大会最優秀3名(意見発表、家畜審査)、県大会最優秀3チーム(プロジェクト発表) ・学科・コース選択に向けて丁寧なガイダンスを行いコース選択満足度は96%。 ・イベント、出前授業・地域開放22回、GAP米でJGAPの認証取得 	
--	--	---	--

<p>家庭科教育の充実</p>	<p>・専門的な技術を向上させ、各種コンクール・ショーに入賞できるよう指導するとともに、家庭クラブ員としての自覚を持たせ、生活文化科の生徒全員が積極的に活動を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○1年生及びその保護者に対して、納得のいくコース選択となるよう、わかりやすいコース説明や面談を実施する。</p> <p>○進学に向けた専門知識の習得を図るために補習授業を行う。</p> <p>○教員がより高度で新しい専門知識を習得し、授業に還元できるよう、各種講座や研修会へ年1回以上参加する。</p> <p>○専門科目における資格取得を勧め、上級の資格取得に取り組む。</p> <p>○地域連携の機会を増やし、なるべく多くの生徒が地域と関わりを持つことで、社会マナーの向上を図る。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○コース選択満足度 95%以上、家庭クラブ活動の充実度 95%以上、資格取得者数延べ900名以上。</p> <p>○社会マナーに関する個別指導を一人につき、2・3年生で2回以上。</p> <p>○地域連携参加生徒の満足度 95%以上。</p> <p>○進路希望達成者90%以上。</p>	<p>・各種コンクール等に積極的に応募・参加し、多くの生徒が入賞できた。また、夏の家庭クラブ全国大会では、これまで準備してきたことを、生徒実行委員を始めとする多くの生徒が実践でき、活躍する姿が見られた。校内家庭クラブ活動でも生徒の活躍する姿が見られた。</p> <p>・進路決定に向けて、小論文や作文の指導、面接指導などを行った。</p> <p>・ほぼ全員が各種講座・研修へ参加し、授業に還元できた。</p> <p>・河原田小学校の児童を対象に、長期休業中に「高校1日体験」を実施。生徒にとってはもちろん、児童・保護者にとってもよい交流の機会となった。</p> <p>・1年生コース選択満足度 97.6% →達成</p> <p>・家庭クラブ員充実度 99.5% →達成</p> <p>・資格取得(1/31 現在) 延べ 890人 →未達成</p> <p>・3年生全員→2回 →達成</p> <p>2年生全員→1回 →実施中</p> <p>※2回目実施は R8年度</p> <p>・地域連携生徒満足度 100.0% →達成</p> <p>・進路希望達成者 98.7% →達成</p>	<p>◎</p>
<p>人権教育の</p>	<p>・生徒教職員が様々な人権問題を正しく理解・認識する</p>	<p>障がい者の人権をテーマ</p>	<p>◎</p>

<p>充実</p>	<p>めの取組を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内人権教育推進委員会において人権教育推進計画を作成・実施することにより人権教育を推進する。 ・生徒個々の家庭状況や進路目標などを把握し、適切な指導を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権LHR、人権講演会、地域との交流。 ○必要に応じて個別面談、三者面談、家庭訪問等の実施。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の人権意識の向上90%以上。 	<p>とした人権講演会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会以前に教員を対象とした研修を行った。 ・講演会の前後に LHR を行い、人権意識を高める学習を行った。 ・人権講演会後の生徒の人権意識に関するアンケートを実施。その結果、99%の生徒が人権意識の向上を実感した。 	
<p>環境教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育で「育てたい生徒の力」を共有し日常の教育活動の中で環境教育を実践する。 ・地域とのコミュニケーション活動を推進する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○環境教育推進を校内の委員会に位置づけ、組織的に取り組む。 ○環境マネジメントシステムにおける実施計画を策定し、全教職員で共有する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6月に環境週間、11～12月に環境月間を設定し、期間中に全教職員が各々の授業で環境教育を実践。 ○地域清掃活動の実施。 ○全教職員協力のもと、本校独自の環境マネジメントシステムを推進。 ○生徒の環境問題に対する理解・関心の向上90%以上。 	<p>環境週間、環境月間を中心に年間を通じて、環境への意識を高め環境教育が実践された。</p> <p>本年度は11月に学校環境デー(地域清掃)を実施(職員生徒参加率 38%)。</p> <p>四日市農芸高校版環境マネジメントシステムとして、環境活動・環境教育の推進など継続した取組を実施している。</p> <p>○環境問題に対する理解・関心の向上 96%</p>	◎
<p>防災教育・健康教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルにより、危機管理にかかわる訓練を実施し、いざという時に備えられる組織運営を行う。 ・生徒の各種検診を確実に行う。 ・保健室利用、学校生活において気になる生徒など担任、学年、科、分掌との情報交換・共有を密にし、迅速に対応する。 ・感染症流行期には感染症対策として消毒や手洗いの徹底などの周知及び方策を行う。 	<p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を2回実施。 <p>5、12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月、全校避難訓練ののち、各学年に分かれて消火・煙体験、救助袋骨降訓練・起震車体験などを行った。さらに講話やスライドなどを使 	◎

	<p>・生徒の心と体を守る取組を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回の防災訓練を実施する。 ○AED講習(職員対象5月:生徒対象7月)、エピペン講習等を実施する。 ○検診の再検査等の連絡及びその診断結果の回収まで確実にを行う。 ○必要に応じてスクールカウンセラー(37回/年)・発達障がい支援員(12回/年)につなげ、支援体制を構築する。 ○保健便りを毎月発行する。 ○性教育講座(1学年、3学年対象)を実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の防災意識の向上90%以上。 ○胸部X線、心臓検診、検尿の受診率100%。 ○「命の尊さ」に関する校長講話を年3回以上。 	<p>った学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月には、全学年対象の三角巾包帯法講習を実施し、津地方気象台職員による講演会を実施した。また、ハイゼックス米を利用した炊き出し訓練も実施した。 <p>2回を通した、生徒の防災意識の向上度 99%。</p> <p>【保健】</p> <p>教員対象 AED・エピペン講習、生徒対象 AED講習を行った。SC 来校日は生徒・保護者、教員との面談を持ち、指導に生かすことができた。発達障がい支援員による面談の継続が困難であり、今後の課題となった。</p> <p>保健だよりを毎月発行し、生徒に健康課題の周知を行った。性教育講話を1年生と3年生に行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科検診、胸部 X 線、心臓検診、検尿等の受診率100%達成。 	
--	--	--	--

改善課題

ICT活用100%や防災・人権意識の向上(90%超)など、多くの指標で成果を上げた。一方で、生徒指導における「マナー・挨拶」の職員・生徒間での認識の違いが課題として残った。引き続き、育みたい資質・能力にあげた「自ら進んで挨拶し、コミュニケーションをとることで、公共心、規範意識、人間関係を築く力、自尊感情を高めることができる生徒」を学校全体での共通理解を深め、浸透を図る。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標とします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標とします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	<p>・計画的な授業研修会を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○授業公開を年2回実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○生徒の授業満足度80%以上。</p>	<p>授業公開を年2回、5週間行った。</p> <p>生徒の授業満足度 1学年 91% 2学年 91% 3学年 96%</p>	◎
開かれた学校作りと組織運営の充実、情報提供による信頼の定着	<p>・学校説明会、入門講座、農芸祭、各種講習会等、校外から参加する催しの企画運営を見直す。</p> <p>・HPの効果的な運用を検討し、最新の情報を発信する。</p> <p>・PTA役員・理事会を充実させ、PTA行事の改善を図る。</p> <p>・さまざまな広報媒体により本校の特色・魅力の発信を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>○文書、HP及び「すぐーる」によりPTA行事や保護者公開の学校行事などの紹介をする。</p> <p>○本校の取組を積極的に報道機関に資料提供する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>○学校説明会・高校生活入門講座、農芸祭等の参加者の満足度 90%以上。</p> <p>○HPの更新 月10回以上。</p> <p>○報道機関に取り上げられる回数 年10回以上。</p>	<p>・PTA活動 役員会6回、理事会4回、5月に総会を実施。 研修会2回、秋の研修旅行1回、農芸祭バザーへのだんごや出店、制服リユース販売などの活動を行った。</p> <p>・満足度 学校説明会 98% 高校生活入門講座 100% 農芸祭 生徒 99%</p> <p>・HPの更新 月平均7回 ・報道機関のべ17回掲載</p> <p>・Instagramを開設。 月平均19回更新</p>	※

<p>働きやすい 職場環境づくり</p>	<p>・総勤務時間の縮減に向けて、働き方改革に取り組み、働きやすい環境をつくる。</p> <p>【活動指標】 〔令和6年度比較、()内は令和6年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時退校日を定期考査期間中とし、定時に退校できる職員の割合80%以上を目指す。(58.8%) ○部活動休養日を週1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指す。(99.6%) ○放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合80%以上を目指す。(64.7%) <p>【成果指標】 〔令和6年度比較、()内は令和6年度実績〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年360時間を超える時間外労働者数を0人に削減。(18人) ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人に削減。(109人) ○1人当たりの月平均時間外労働時間を30時間以下に削減。(25.4時間) ○1人当たりの特別休暇を含む年間休暇取得日数を21日以上。(15.4日) 	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時に退校できた職員の割合 59.1% ○休養日を設定した部活動の割合 99.6% ○60分以内に終了する会議の割合 76.9% <p>【成果指標】(12月31日末)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年360時間を超える時間外労働者数 17人 ○月45時間を超える時間外労働者数 156人 ○月平均時間外労働時間を30時間以下 18.8時間 ○特別休暇を含む年間休暇取得日数 12.8日 <p>※ただし、長期の育児時間、病休、産前産後休暇等を除く。</p>	<p>◎ ※</p>
--------------------------	---	---	----------------

<p>不祥事根絶に向けた取組</p>	<p>・不祥事の根絶と教育の信頼回復に向けた取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コンプライアンス研修を年2回以上開催する。 ○「学校信頼向上委員会」を設置し、「信頼される学校であるための行動計画」に反映及び周知徹底する。 ○臨時的任用講師、非常勤講師ともに校長が教員としての心構え、講師の服務等についての研修をする。 ○教職員による体罰、セクハラ、わいせつ行為等の有無について生徒へのアンケートを実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員による体罰、不祥事、不適切な発言をなくす。 	<p>【活動指標】</p> <p>学校信頼向上委員会を4回行い、コンプライアンスやハラスメントに関する当事者意識を醸成した。</p> <p>講師の服務等についての研修を3回行った。</p> <p>体罰、セクハラ、わいせつ行為等のアンケートを3回行った。</p>	<p>◎</p>
--------------------	---	--	----------

改善課題

広報面では学校行事の満足度が極めて高く、マスコミや新規開設したInstagram(月平均19回更新)の活用により本校の魅力が広く周知された。一方で、働き方改革は課題が残る。会議の短縮や平均時間外労働の抑制には進展が見られるものの、月45時間を超える労働者の延べ人数が増加し、年360時間超えの対象者も依然として多い。定時退校率や休暇取得日数も目標に届いておらず、業務精査による実効性の高い負担軽減策が急務である。

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>本校の強みである「行事の充実」が生徒の意欲向上に直結している一方、これらを支える教職員の負担軽減と生徒の主体性の育成を両立させることが課題である。もう一つの強みである挨拶は多くの生徒が実践しており、この状態を組織的な「学校文化」として定着させ、次年度以降へ伝承していく必要がある。また、将来的なリスク(教職員の休職など)を勘案した働き方改革について取り組まなければいけない。</p>
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>生徒指導の「マナー・挨拶」への認識に教職員・生徒間で違いがある。人間関係を築く「コミュニケーション能力」であることを、教育活動を通じて指導をしていく。また、目標に届かなかった環境教育では地域清掃等の参加率向上が課題であり、行事の意義付けを徹底して生徒が主体的に動ける仕組み作りを推進する。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>長時間労働の抑制と休暇取得が課題である。次年度は行事準備の効率化を行い、業務の削減を行う。校務分掌の平準化を図り、ICTを活用した校内情報の共有・効率化を加速させる。教職員が心身ともに健康でこそ教育の質が維持できるという認識を組織全体で共有し、定時退校の励行と年休取得を促す環境作りを進める。</p>